

鳥取駅周辺再生基本構想(第2期) 第1回策定委員会 資料

令和2年6月2日

1. 全体の構成
 - 1-1. 背景・経過
 - 1-2. 令和元年度の取り組み
 - 1-3. 基本構想(第2期)策定方針
 - 1-4. 策定体制
 - 1-5. 検討スケジュール・議題案
2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点
 - 2-1. 現状1(当初構想事業経過等)
 - 2-2. 現状2(基礎調査)
 - 2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

1. 全体の構成

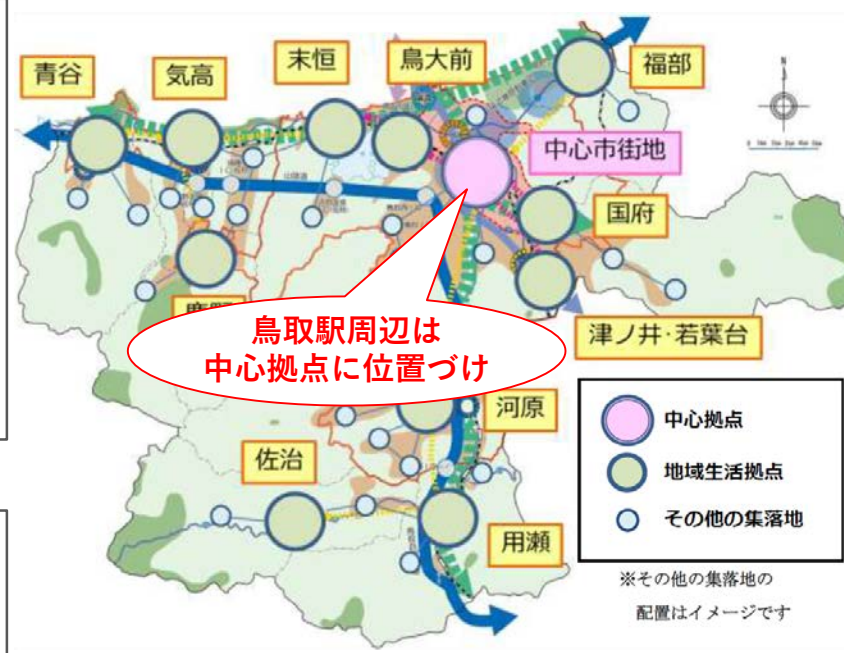
1-1. 背景・経過

- 人口減少、少子高齢化など様々な課題を抱える中、本市では、持続的な発展に向けて中心市街地と地域生活拠点を公共交通により有機的に結ぶ**多極ネットワーク型コンパクトシティの実現**を目指しています。
- これに向け、**高度な都市機能が集積する中心市街地においては中心核としての役割を強化**することが必要です。
- その中でも、交通結節点である**鳥取駅周辺の再生**を図るため、平成23年9月に**鳥取駅周辺再生基本構想を策定し、官民連携して再生に取り組んできました。**

コンパクトシティの中心拠点

都市づくりの理念

- ① 中核市の中心エリアとしてふさわしい**都市機能や居住地がバランスよくコンパクトに配置**された便利で住みよい市街地の形成
- ② 田園地域での**良好な生活環境や営農環境**の形成
- ③ 自然環境の積極的な保全と、レクリエーションや学習の場としての利活用
- ④ 全ての市民が公共交通を利用して気軽に移動できる公共交通のネットワーク化



都市づくりの将来像

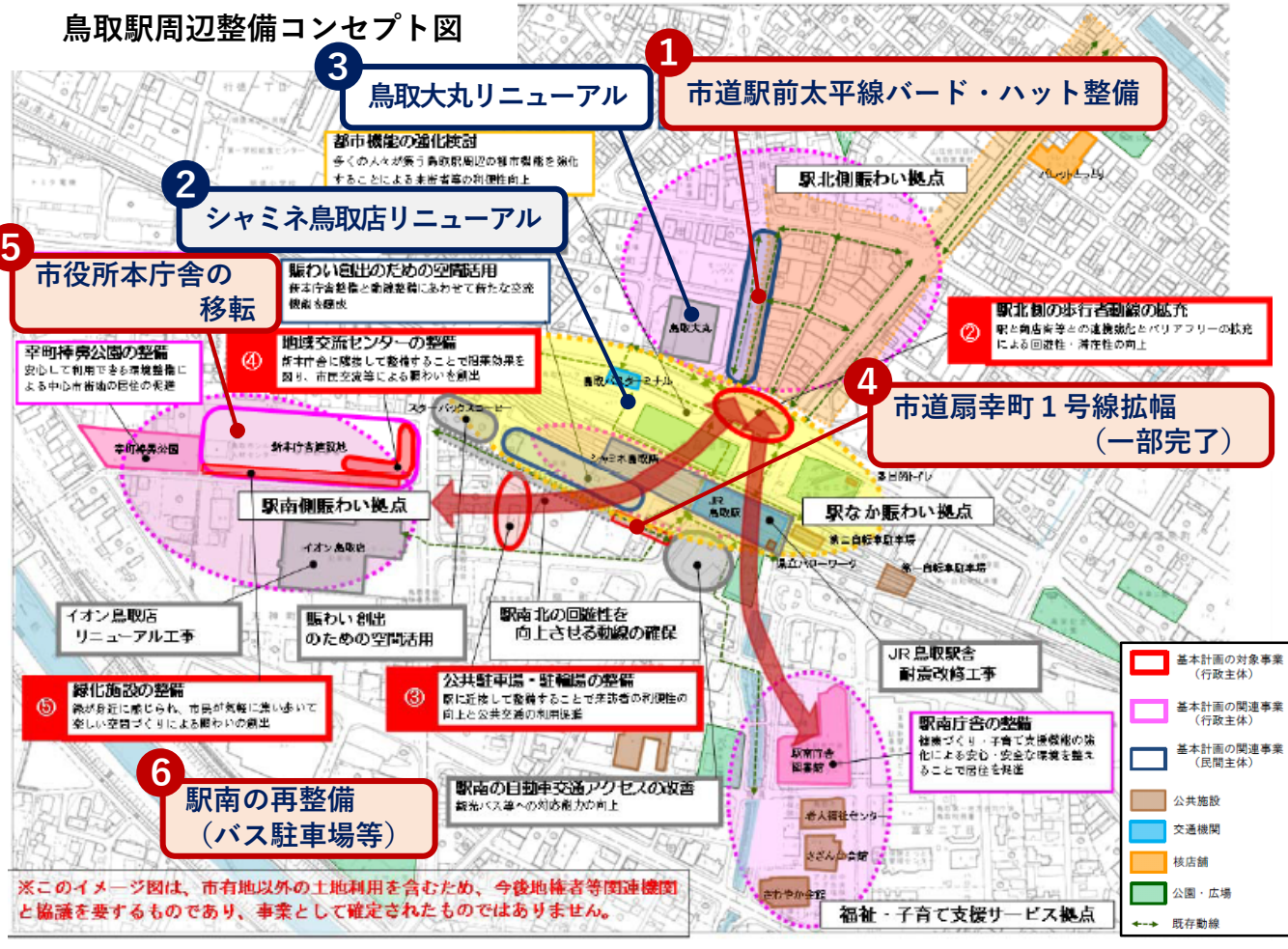
多極ネットワーク型コンパクトシティ

既に高度な都市機能が集積している中心市街地を「中心拠点」、身近な生活サービス機能が集積している総合支所周辺などを「地域生活拠点」と定め、各拠点が提供するサービスを役割分担し、各拠点やその他の集落地をバスなどの公共交通で効率的に結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指す。

中心拠点の整備方針

- | | |
|---------------|----------------|
| ア) 街なか居住の促進 | オ) 新たな賑わい空間の創出 |
| イ) 商店街の活性化 | カ) 回遊性の向上 |
| ウ) 高次都市機能※の集積 | |
| エ) 交通環境の改善 | |

構想期間内で実施された主な事業 (構想期間：平成23年度～令和2年度)

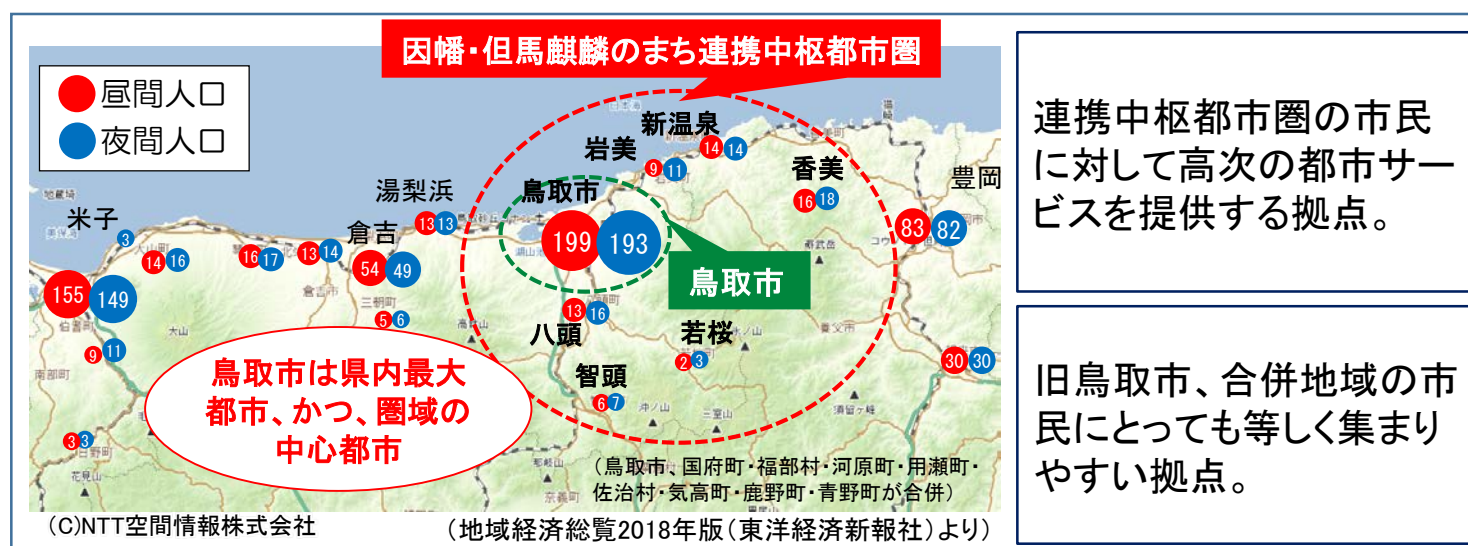


1. 全体の構成

1-2. 令和元年度の取り組み

中核市・連携中枢都市圏の中心市へ

- 平成30年4月に本市は**中核市**となり、また同時期に形成された**因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏の中心市**としての役割も期待されています（令和2年4月時点で連携中枢都市圏に兵庫県香美町が加わり、「1市6町」になりました）。



協定の締結と鳥取駅周辺に係る基礎調査（事前配布資料）の実施

- 鳥取駅周辺がそのエントランスとしてふさわしい姿となるよう様々な取り組みを進める中、令和元年7月には独立行政法人都市再生機構と協定を締結し、まちづくりに連携協力して取り組むとともに、同年**基礎調査を実施し鳥取駅周辺が抱える課題の抽出**を行いました。

1. 全体の構成

(参考) 将来人口 他

総人口の推移と将来推計

- 本市の人口は2005年をピークに**減少傾向**にあります。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、**今後、人口は急速に減少を続ける**ことが推察されています。

※国立社会保障・人口問題研究所：以下「社人研」という。

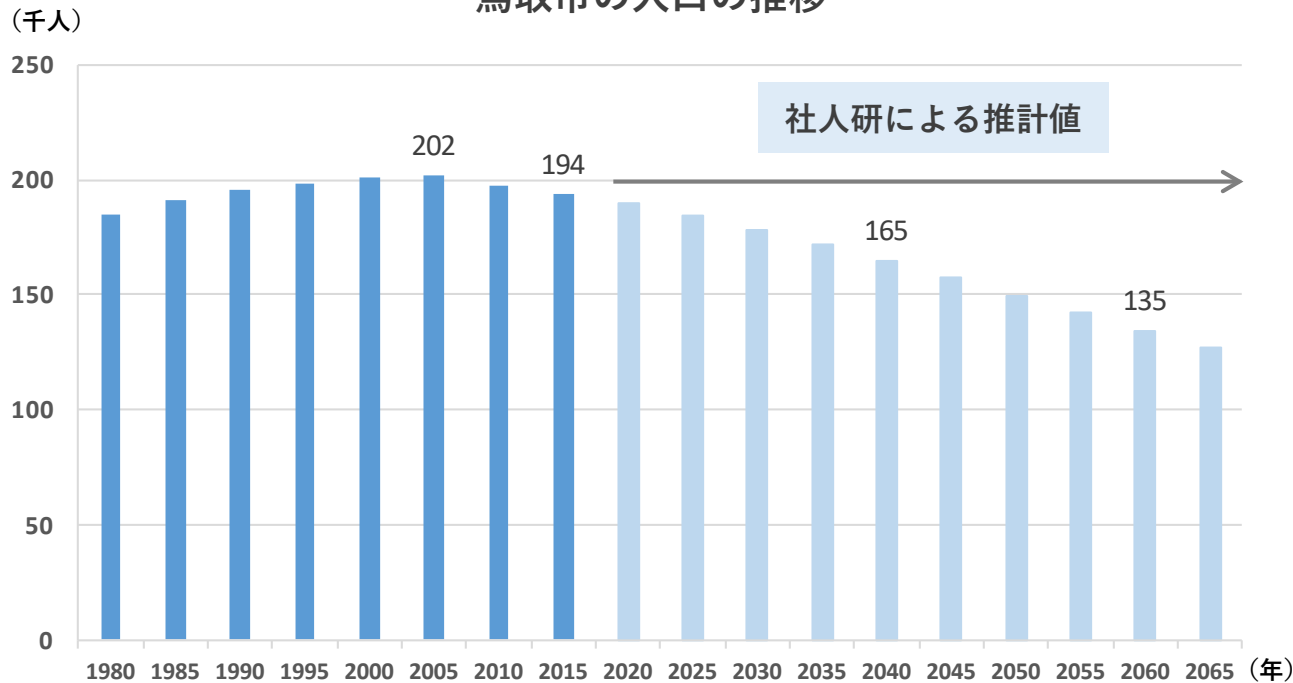
社人研推計	2040年：165千人
	2060年：135千人

人口の将来展望／人口減少問題に取り組む基本方針

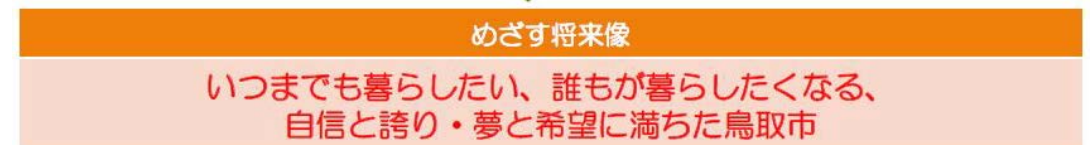
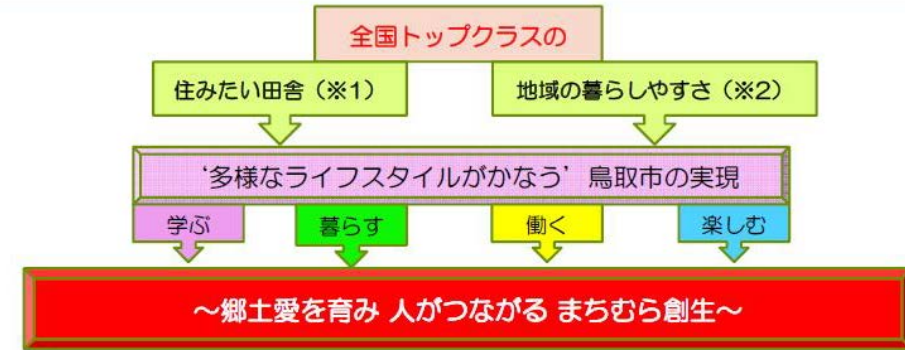
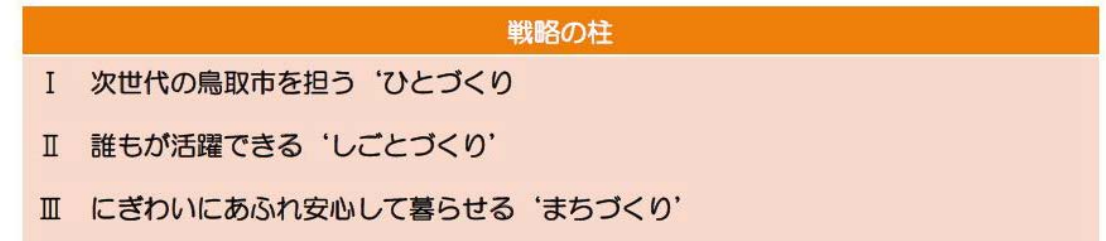
- 本市では、出生率の上昇や転入増加に寄与する政策の誘導を通じて、**人口減少の抑制・克服**をめざします。
- また、次世代の鳥取市を担うひとづくり、誰もが活躍できるしごとづくり、**にぎわいにあふれ安心して暮らせるまちづくり**を通じ、将来像の実現をめざします。

目標人口	2040年：166千人
	2060年：140千人

鳥取市の人口の推移



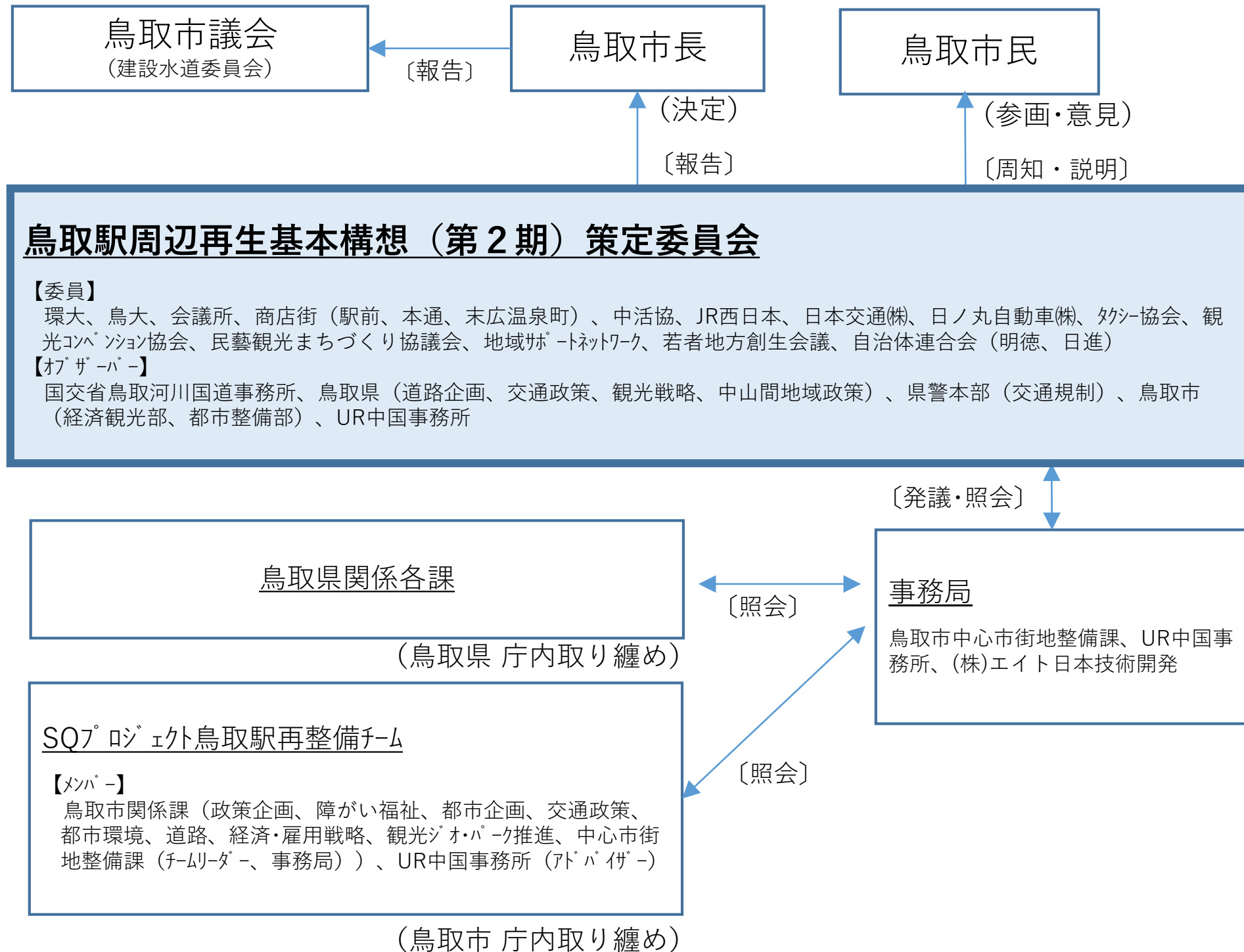
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年）」



出典：鳥取市「鳥取市創生総合戦略（平成27年9月策定、令和2年3月改訂）」

1. 全体の構成

1-4. 策定体制



1. 全体の構成

1-5. 検討スケジュール・議題案

	開催時期	内 容	備 考
準備会議	R2.4.30	<ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺の賑わい創出に関する基礎調査について・鳥取駅北口交差点交通実態調査について・鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定について・鳥取駅周辺再整備に関する意見交換	
第1回	R2.6.2	<ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定について・これまでの取組みについて（H23構想）・策定に当たっての視点、前提条件等について・鳥取駅周辺地区の課題等について・意見交換	
個別訪問	R2.6～7	<ul style="list-style-type: none">・課題、対応策、将来像等について（意見聴取）	委員会の進捗次第で実施
第2回	R2.7～8頃	<ul style="list-style-type: none">・課題、対応策等について・方針案について	
第3回	R2.10頃	<ul style="list-style-type: none">・めざすべき将来像及び将来イメージ等について	
第4回	R2.12頃	<ul style="list-style-type: none">・基本構想(案)（市民政策コメント(案)）について	
市民政策コメント	R3.1頃	<ul style="list-style-type: none">・市民政策コメントの実施について	
第5回	R3.2頃	<ul style="list-style-type: none">・市民政策コメントの結果と意見反映案について・基本構想(案)について	

1. 全体の構成

(新型コロナウイルス対応等)

- 5月28日時点で、県内での感染者は3名。
- 緊急事態宣言が解除され、徐々に通常体制に戻りつつあるものの、大人数の会議を開催する場合には特に、配慮が必要。
(広めの会議室を準備、消毒液の準備、マスク配布及び着用お願い等)
- ビデオ会議による出席も可
- 今後の感染状況如何によっては、会議体制の変更もあり得る。
 - 会議の簡素化、時間短縮
 - 会議開催回数の縮減、招集人数の縮減
 - 書面照会の実施
 - 構想策定の延期 等

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-1. 現状1(当初基本構想⇒後期基本計画)

鳥取駅周辺再生基本構想(H23.9策定)

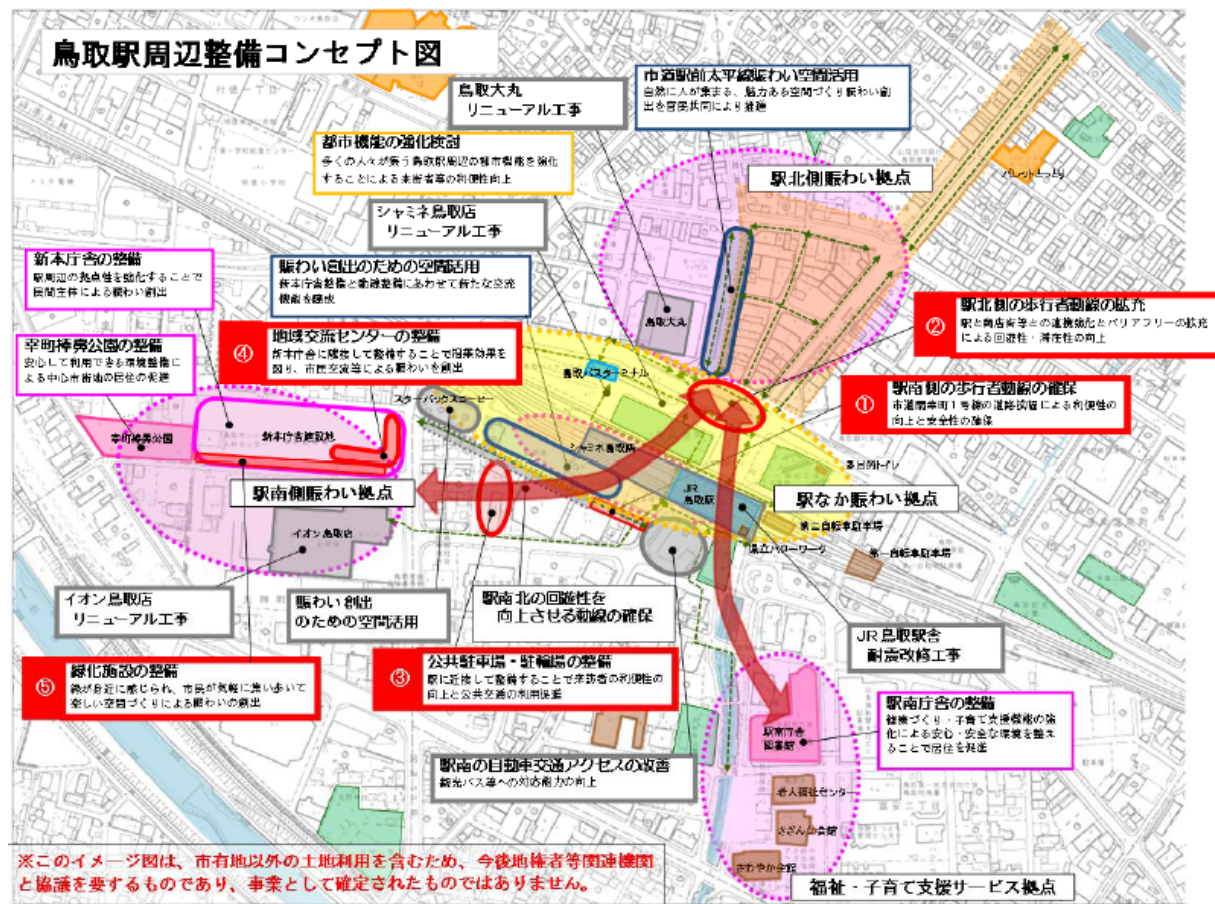
【基本理念】人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS(オアシス)』の創造

駅周辺地区では、市の広域交通の起点(Origin)として魅力的(Attractive)で人々が集い・交流(Communication)が進み、また新時代に対応した各種情報(Information)がますます集積する、持続可能(Sustainable)なまちづくりをめざす。

【駅周辺地区のめざすべき将来像(4つのテーマ)

- (1) 多機能を高度に集積した広域圏対応型拠点の形成 ⇒ 公共駐車場、鳥取駅前太平線再生プロジェクトなど
- (2) 回遊性と滞留性をもたせた人が行き交う交通結節点の形成 ⇒ 公共駐車場・駐輪場、新総合公共交通システムとの連携など
- (3) 低炭素社会の実現に向けた都市環境の形成 ⇒ 自転車走行空間、鳥取駅前太平線芝生広場など
- (4) 便利で安心、住み続けたいと思える快適な生活空間の形成 ⇒ 高齢者向け住宅、保育施設、共同建替えへの支援など

鳥取駅周辺再生基本計画(H24.10策定:前期計画⇒H30.3改定:後期計画)

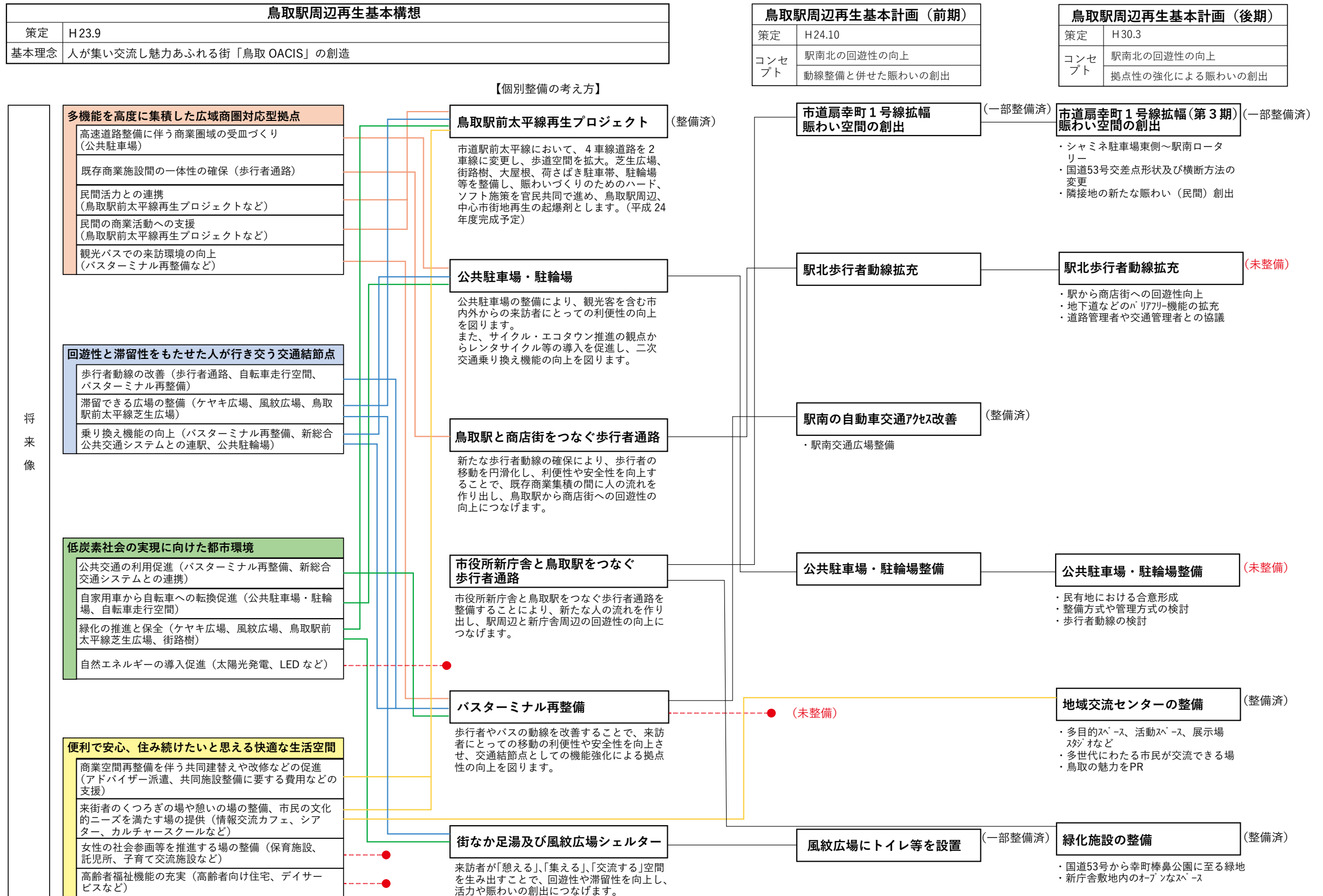


後期計画期間	平成30(2018)年度～令和4(2022)年度の5年間
整備のコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅南北の大型商業施設等を中心とする賑わい拠点間の基盤整備を行うことで、官民連携による利便性や回遊性の向上を図るとともに、動線整備と併せた新たな賑わい空間を創出 ● 中核市移行による連携中核拠点都市にふさわしい高度な次元の都市機能の強化について検討

- #### 【基本計画において整備する機能】
- ① 駅南側の歩行者動線の確保
 - ② 駅北側の歩行者動線の拡充
 - ③ 公共駐車場・駐輪場の整備
 - ④ 地域交流センターの整備
 - ⑤ 緑化施設の整備

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-1. 現状1(当初基本構想に基づく事業の整備状況)



将来像

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-2. 現状2(基礎調査の主旨・項目)

●第2期基本構想の策定に向けては、鳥取駅周辺の賑わい創出にかかる問題点・課題の抽出、必要な施策検討に向けた基礎資料として、既存資料や都市計画基礎調査等の資料を基に、以下に示す項目について基礎調査を実施した。

基礎調査項目		
1) 上位・関連計画調査	② 商店街関係調査	7) 歴史調査
① 都市計画マスタープラン	③ 土地利用関係調査	① 史跡・文化財調査
② 鳥取市景観計画	4) 施設調査	② 市街地変遷調査
③ 中心市街地活性化基本計画	① 商業施設関係調査	8) 意向調査
④ ウォーカーブル推進都市への賛同	② アミューズメント施設関係調査	① 市民及び来訪者意向調査
⑤ インフラ整備に係る情勢の変化	③ 宿泊施設関係調査	② 事業者意向調査
2) 交通調査	④ その他施設調査	9) その他調査
① 鉄道関連調査	5) 環境調査	① 人口動態関係
② バス関連調査	① 気象調査	② 地価・路線価調査
③ その他交通関連調査	② 地下水調査	③ 税込調査
④ 道路交通関連調査	③ 自然災害調査	④ 無料Wi-Fiエリア関係調査
⑤ 駐車場・駐輪場関連調査	6) 既存条件調査	⑤ 鳥取市におけるトピックス
3) 土地利用調査	① 協定等調査	⑥ 事例調査
① 建築物関係調査	② 法規制等調査	⑥ 他都市比較

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-2. 現状2(上位・関連計画調査:鳥取市都市計画マスタープラン)

- 既に高度な都市機能が集積している中心市街地を「中心拠点」と定め、その他の周辺の地域生活拠点が提供するサービスと役割分担し、各拠点間を公共交通で効率的に結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指している

コンパクトシティの中心拠点

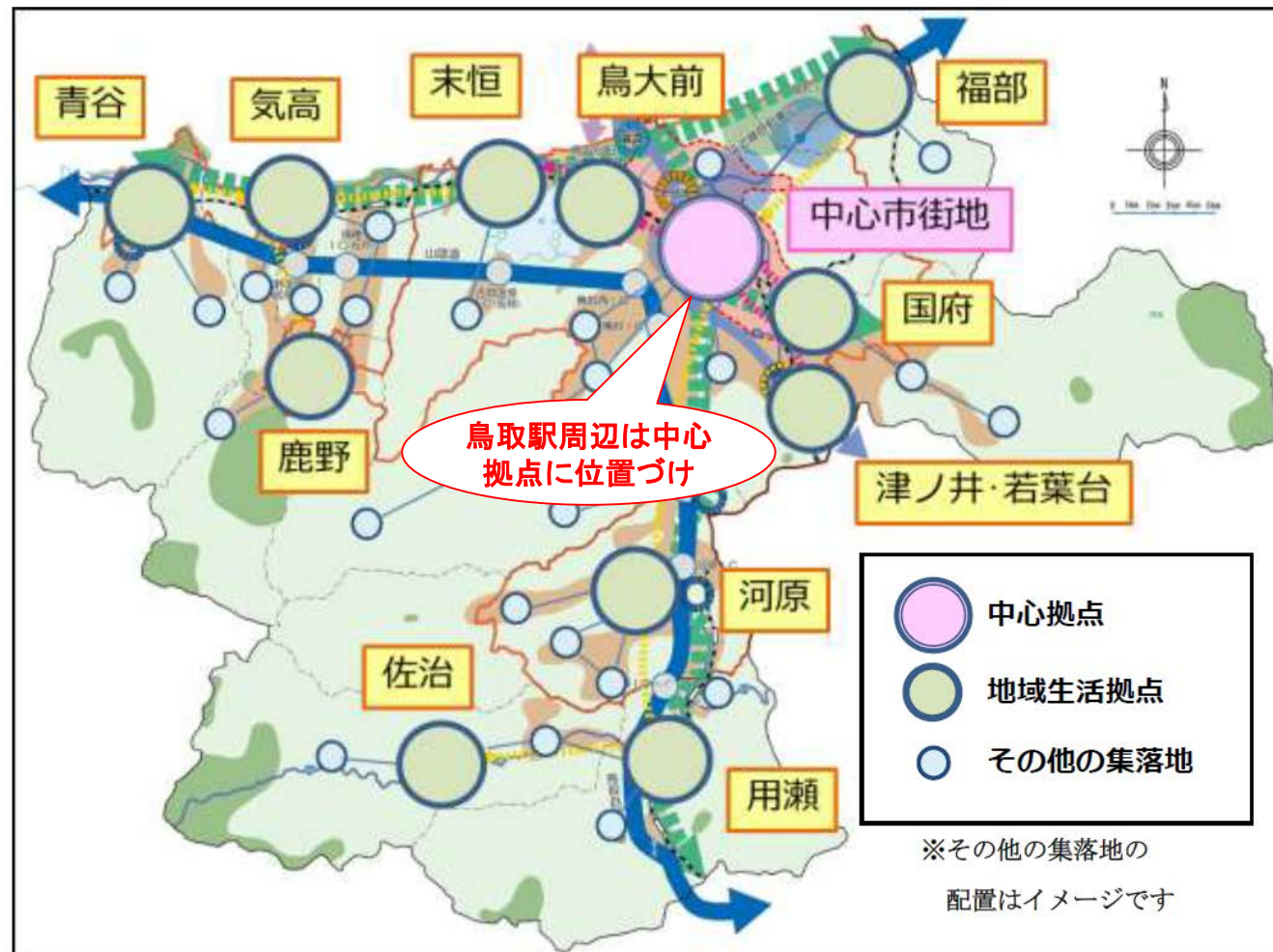
都市づくりの理念

- ① 中核市の中心エリアとしてふさわしい都市機能や居住地がバランスよくコンパクトに配置された便利で住みよい市街地の形成
- ② 田園地域での良好な生活環境や営農環境の形成
- ③ 自然環境の積極的な保全と、レクリエーションや学習の場としての利活用
- ④ 全ての市民が公共交通を利用して気軽に移動できる公共交通のネットワーク化

都市づくりの将来像

多極ネットワーク型コンパクトシティ

既に高度な都市機能が集積している中心市街地を「中心拠点」、身近な生活サービス機能が集積している総合支所周辺などを「地域生活拠点」と定め、各拠点が提供するサービスを役割分担し、各拠点やその他の集落地をバスなどの公共交通で効率的に結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指す。



中心拠点の整備方針

- ア) 街なか居住の促進
- イ) 商店街の活性化
- ウ) 高次都市機能※の集積
- エ) 交通環境の改善
- オ) 新たな賑わい空間の創出力
- カ) 回遊性の向上

※高次都市機能
都市機能のうち、日常生活の圏域を越えた広域地域を対象とする多くの人々を対象にした、医療、商業、行政などあらゆる分野で質の高いサービスを提供する機能のこと。(総合病院、デパート、市役所本庁舎など)

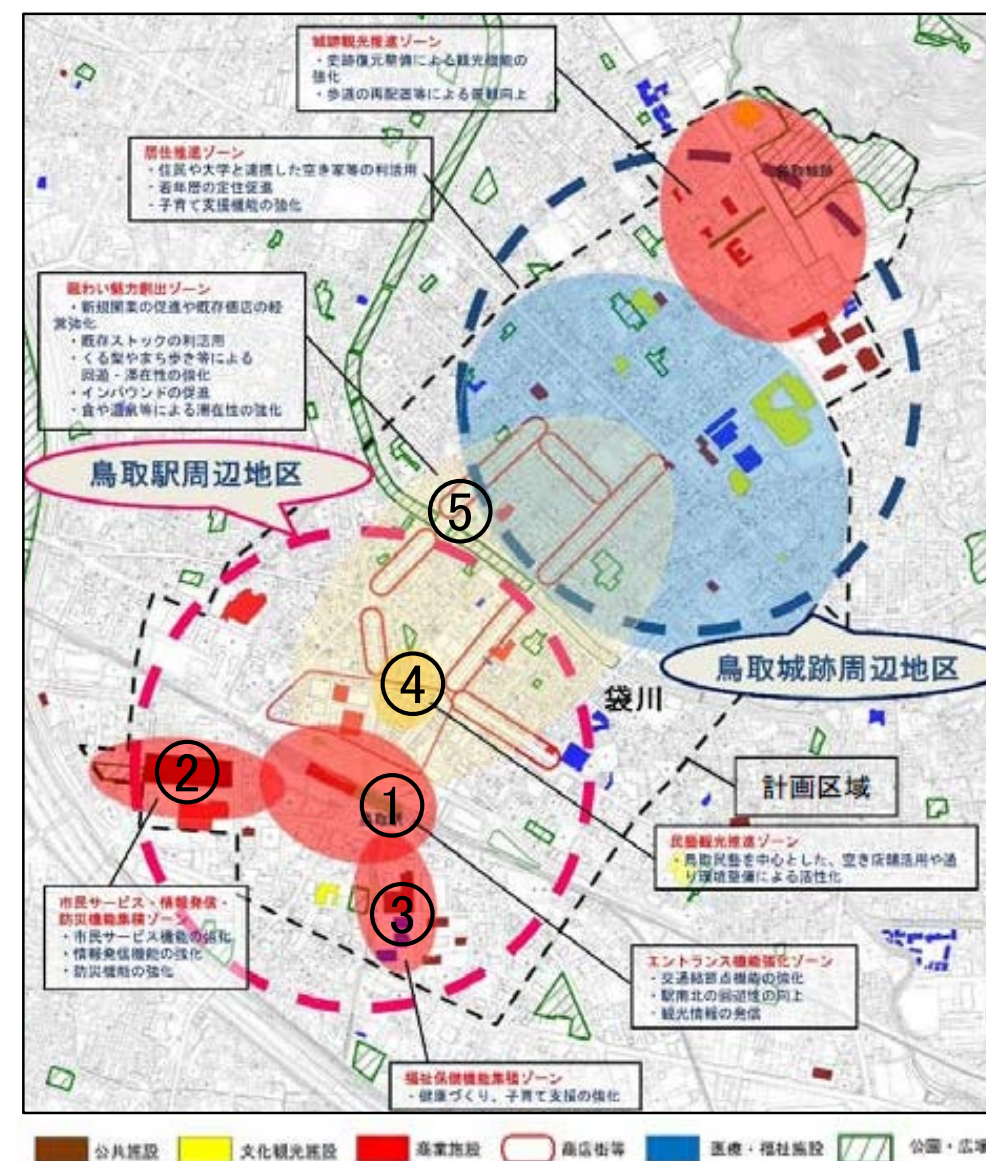
2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-2. 現状2(上位・関連計画調査: 中心市街地活性化基本計画)

- 駅周辺地区は、山陰東部圏域の中心市の核、様々な機能が集積する舞台に位置付けられている
- 駅周辺は、エントランス機能強化ゾーンとして、交通結節点機能の強化、駅南北の回遊性の向上、観光情報の発信が求められている

中心市街地活性化基本計画 第3期(H30.4月)

項目	内容
計画期間	平成30(2018)年4月～令和5(2023)年3月
計画区域	鳥取駅周辺地区と鳥取城跡周辺地区を核 とし、その2つの核をつなぐ若桜街道と智頭街道を軸とする、二核二軸を中心とした約210ha
テーマ	集い、つながる、とっとりのまち、山陰東部の都市核づくり
基本方針	◆ 交流による活気あるまち ◆ 誰もが豊かに暮らせるまち
エリアコンセプト	鳥取駅周辺地区: 山陰東部圏域の中心市の核として、駅を中心にさまざまな機能が集積する舞台 鳥取城跡周辺地区: 歴史・文化等を有する観光交流と、豊かな居住の舞台
重点施策	◇ 鳥取駅周辺の多様な機能の拡充による賑わいの再生 ◇ 地域資源等の活用による観光交流の促進 ◇ 中心市街地の回遊・滞在性の向上による経済活力の向上 ◇ 既存ストック(※)の活用等による地域の再生 (※既存ストック: 現在すでにある空き家・空き地・コミュニティなどの蓄積)
鳥取駅周辺地区ゾーン設定	① エントランス機能強化ゾーン⇒【駅周辺】 ② 市民サービス・情報発信・防災機能集積ゾーン⇒【市役所新本庁舎周辺】 ③ 福祉保健機能集積ゾーン⇒【市役所駅南庁舎周辺】 ④ 民藝観光推進ゾーン⇒【民藝館通り周辺】 ⑤ 賑わい魅力創出ゾーン⇒【二軸周辺】



2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-2. 現状2(上位・関連計画調査:ウォーカブル推進都市への賛同)

- 「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」により「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成によるイノベーション創出と人間中心の豊かな生活実現に向けた都市構築が提言された
- 併せて、まちづくりに必要となる「10の要素」や、国が講ずべき「10の施策」が提言されている
- 国交省ではR1.12に令和2年度予算のとりまとめ、税制改正、検討会・懇談会、作成予定の事例集・ガイドライン等のとりまとめを実施
- 鳥取市は、本取組に賛同する「ウォーカブル推進都市(247団体(R2.4.30現在))」として参加している

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生(R1.6月)

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのキーワード

Walkable **E**ye level **D**iversity **O**pen

歩きたくなる まちに開かれた1階 多様な人の多様な用途、使い方 開かれた空間が心地良い

今後のまちづくりの方向性

- 今後のまちづくりにおいては、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組をさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成する必要
- 多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口をさらに惹きつける好循環が確立された都市の構築を図るべき

「10の構成要素」

- 要素(1) まちなかへ多様な人を集める
- 要素(2) 官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間にする
- 要素(3) 量に加え、交流・滞在など活動の質も重視する
- 要素(4) 官か民かでなく、中間領域(空間、組織)を活用する
- 要素(5) 仮設・暫定利用、実験などLQCアプローチに力を込める
- 要素(6) 完成・成熟を求めず、育成・更新を続ける
- 要素(7) 多様性を共存させる
- 要素(8) 場所性や界隈に根差し、本物のオンリーワンが生まれる
- 要素(9) ゆるやかなプラットフォームでビジュアル、実験結果、データを共有する
- 要素(10) フィジカル空間にサイバー空間を融合させていく

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ

都市構造の改変等

- 都市構造の改変(通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等)
- 都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備(人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等)等

居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable 歩きたくなる 居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたい、歩きたくなる。

Eye level まちに開かれた1階 歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えたと、人は歩いて楽しくなる。

Diversity 多様な人の多様な用途、使い方 多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open 開かれた空間が心地良い 歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

3. 「まちなかウォーカブル推進プログラム(仮称)」～国による「10の施策」～

●市町村や民間事業者等による取組を国が支援

空間の形成等を支援	(1)人中心のまちなかへの修復・改変(リノベーション)	(2)まちなか空間の多様な利活用の促進
	①まちなか修復・改変事業の一括的推進 ②居心地の良さに着目した公共空間のデザインの工夫 ③街路空間を人々が滞在・交流できる場に転換 ④「かわ」と「まち」が融合した良好な空間形成 ⑤低層部の充実に向けた地区計画やデザインガイドラインの活用促進 ⑥民間パブリック空間の更新事業を促進する方策の検討 ⑦昼も夜も歩きたくなる夜間景観の創出 ⑧何か所も立ち寄りやすい公共交通の推進 等	①「ミクストユース空間」の拡大方案の検討 ②民間空地等の利活用促進 ③公園緑地の利活用によるまちなか活性化方策の検討 ④多様化する利活用を促進する包括許可等の推進 ⑤ワンストップ窓口の設置促進 ⑥特別制度等の周知徹底 等
仕組みの構築等を支援	(3)オープンイノベーション、イノベーション・エコシステムの形成	(4)オンリーワン都市再生の推進
	①オープンイノベーション、イノベーション・エコシステム形成の推進 ②都市・産業が連携したビジネス環境の整備の推進 ③小さなチャレンジ型まちづくり活動の推進 ④生産性が高まるオフィス環境の整備促進 ⑤テレワークの推進 等	①国際競争力やエリア価値向上に資する都市再生事業の推進 ②スマートシティの全国展開 ③個性ある都市再生事業の推進方策の検討 ④「昭和遺産(仮称)」の保全・活用 ⑤鉄道沿線ごとの特徴を活かした魅力ある都市再生の推進 等
連携	(5)官民プラットフォーム等の育成・充実	(6)多様な資金の循環の促進
	①ゆるやかな官民プラットフォームの形成・充実 ②エリアマネジメント団体等都市再生推進法人の機能強化 ③防災、環境・エネルギーへの取組強化 ④エリア・データプラットフォーム構築の推進 ⑤データ収集に必要な機器、設備等の設置促進 ⑥まちづくり人材の育成 等	①多様な資産調達手法の活用促進 ②地産地消のまちづくり活動を支える仕組み ③公共空間の運営等に係る金融支援の検討 ④公共施設等の再編等を通じたまちづくりに対する金融支援の推進 等
検討の深化	●上記のほか、国自ら以下の取組を継続して展開し、官民の多様な主体による取組を更に推進	
	(7)全国ネットワークの形成	①全国的中間支援団体と国土交通省等との協力深化 ②まちづくり関係者と国土交通省との政策対話の開始 ③URの知見・能力の活用 等
	(8)老朽化・陳腐化した市街地再生の検討	(9)芝生の子カラの活用
①スタートアップのオフィスや住居としての活用推進 ②リノベーションや小規模な建替え、コワーキングの創出等も含めた市街地整備の推進 ③事業完了前の暫定利用による都市の価値の維持・事業採算の改善等 ④事業完了後のエリアマネジメントまで見据えた取組の推進 ⑤広域的な公共貢献の評価等による拠点的なエリアの都市環境の改善 ⑥権利関係が複雑なオフィスビル等の建替えの円滑化 等	①まちなかの「芝生の子カラ」の造成・管理に関する懇談会(仮称)の設置 ②市民緑地認定制度やSEGES(緑の認定制度)の活用促進 ③バイオフィリックデザインの導入の促進検討 等	①ストリート・デザイン・ガイドラインの作成 ②日本版ウォーカブル・シティ・インデックス(仮称)の開発 等

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

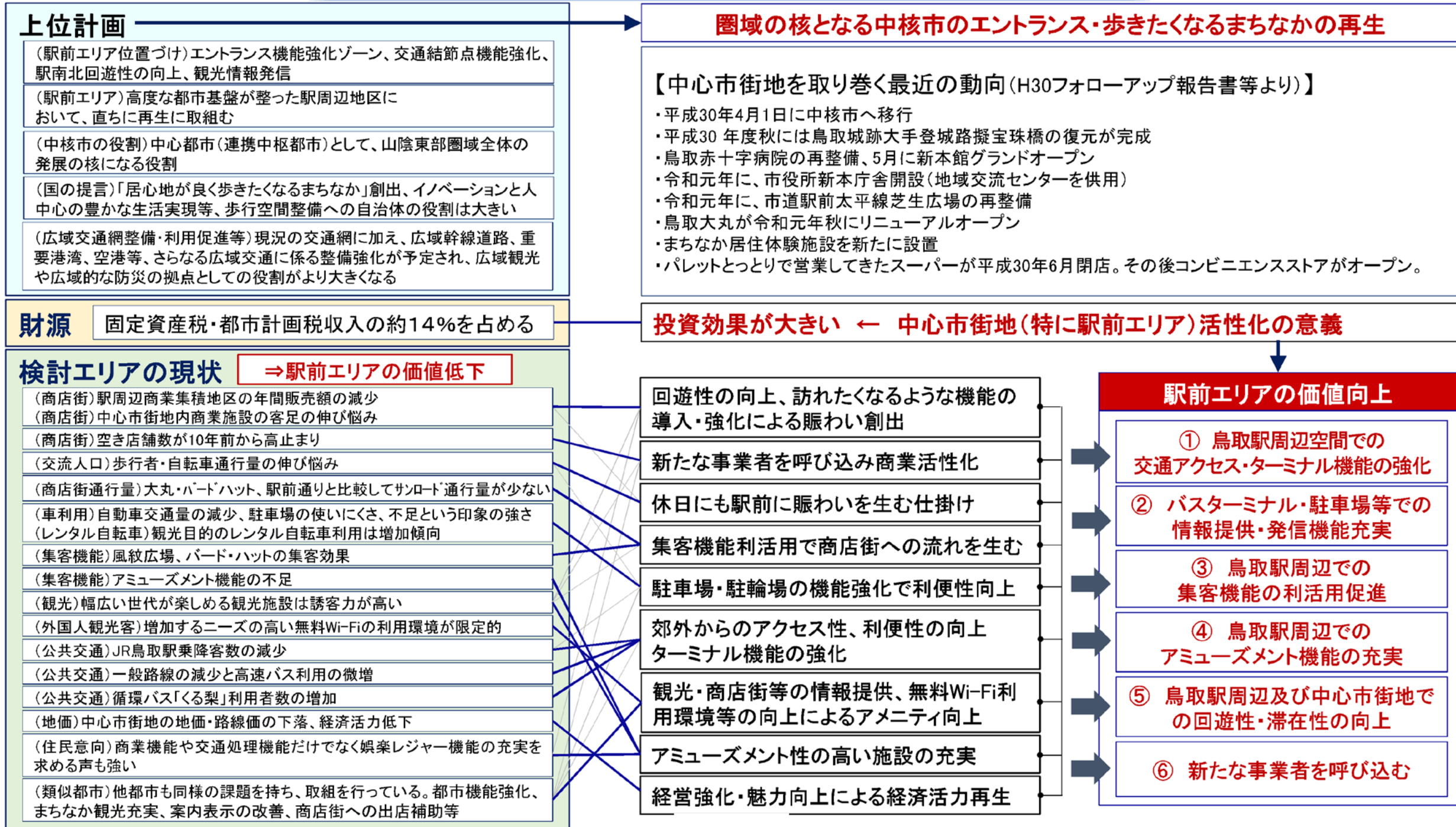
2-2. 現状2(基礎調査総括)

駅周辺地区を取り巻く状況 【評価】○:前回構想策定時と比較して状況が改善・好転している △:前回構想策定時と比較して状況に大きな変化がみられない ×:前回構想策定時と比較して状況が悪化している				
項目	前回構想策定以前(H23.9)	構想策定後の状況	方向性	評価
①歩行者・自転車通行量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地内における、歩行者・自転車の通行量の減少傾向 ● 平日約37%、休日約46%減少(H10～H22) ● 賑わい・集客力の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 休日の交通量は、H25のバード・ハットのオープン以降、H28を除き増加傾向で回復傾向 ● レンタル自転車利用は、順調に推移 ● 中心市街地の印象の悪さ上位に駐車場不足 	回復傾向はみられるが、歩行環境、利便性には課題 誘客策及びそれらによる回遊性向上が求められる	△
②居住人口の状況	居住人口の減少傾向。H7～H17までの10年間で約6%減少	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地内人口は、H23～H31にかけ、ほぼ横ばいで推移(12,504人→12,333人 -1.4%) ● 一方、鳥取市総人口は、H23～H31にかけ、減少傾向(194,871人→187,288人 -3.9%) ● 高齢人口割合は、27.1(H23)%から30.2%(H31)と増加している 	中心市街地における居住人口は横ばいを維持している まちなか居住の推進のため、中心市街地の魅力向上が求められている	△
③商業の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地内の商店数及び年間販売額の減少 ● 郊外型商業店舗が増加、中心市街地の個店などの減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間販売額はH19～H26にかけて緩やかな減少・中心市街地内商業施設の客足の伸び悩み ● 空き店舗数は10年前の水準で高止まり 	全国的にも無店舗販売の拡大に伴い、百貨店や商店街の売上が減少している中で、当該エリアの年間商品販売額は緩やかな減少・空き店舗数同水準を維持 イベントやアミューズメント機能等の充実による商業施設への誘客が求められる	△
④地価の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥取駅北側周辺3地点における地価の推移は、それぞれ約50%前後下落(H14～H19) ● 駅前の商業地の一等地である栄町は、約56%と大きく下落 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に下落傾向、特に駅前エリアは6.3万円/㎡下落(H23～H31 -32%)しており、下落傾向が続いている ● 路線価の高い駅前のエリアでは、H25～H30年間で約2割下落(総地価はH15～H30で約4割まで下落) ● DID内人口、駅周辺地価ともに減少傾向 	地域経済の活性化やまちの魅力向上による、不動産取引の活性化(地価上昇)が求められる	×
⑤鳥取駅及び鳥取バスターミナル乗降人員の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥取駅の乗降人員は、毎年減少、5年間で約12%減少(H16～H21) ● 一方で、利便性に優れた高速バス、循環バス及び定期観光バスはそれぞれ約4%前後増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥取駅乗降人員は、H23～H31にかけほぼ横ばいで推移(406万人→396万人 -2.5%) ● コミュニティバス「くる梨」の利用者数は、本格運行されたH15以降、利用者数は増加傾向 	鳥取駅利用者は横ばいを維持している 公共交通の充実、ターミナル機能の充実が求められる	△
駅周辺地区のポテンシャル				
交通結節点としての機能による優位性	鳥取自動車道や山陰自動車道、鳥取豊岡宮津自動車道の整備が順次推進により、かつて25万人と言われた本市の商圏人口は、今後35万人規模まで達する見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心都市(連携中枢都市)として、山陰東部圏域全体の発展の核になる役割が期待 ● 市庁舎移転による行政機能の集約、駅周辺のポテンシャル向上 ● 山陰道は北条道路開通予定など、整備推進 ● 鳥取自動車道(H25.3)、鳥取西道路(R1.5)が開通 ● 鳥取港は、平成30年より20年ぶりの港湾計画全面改訂へ向けた検討等 	まちなかの賑わい創出、広域観光や広域的な防災の拠点としての役割がより大きくなる	○
社会的背景				
外国人旅行者	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥取県における外国人宿泊者数は5年間で約3倍増加、全国(約2倍)の伸び率と比較して、大きな伸びとなっている ● 地方都市の交通課題解決に向けた日本版MaaS等新たなモビリティサービス活用が推進されている ● ウォーカブル推進都市、ユニバーサルデザインによる歩行空間の整備等、まちなか歩行環境の重要性が高まっている 			○

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

中核市のエントランスにふさわしい駅周辺の再整備を検討し、エリア価値の向上につなげる



2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

■鳥取駅周辺課題点位置図

() 内の数字は資料4 右下の駅前エリアの価値向上の番号と対応

- ①鳥取駅周辺空間での交通アクセス・ターミナル機能の強化
- ②バスターミナル・駐車場等での情報提供・発信機能充実
- ③鳥取駅周辺での集客機能の利活用促進

- ④鳥取駅周辺でのアミューズメント機能の充実
- ⑤鳥取駅周辺及び中心市街地での回遊性・滞在性の向上
- ⑥新たな事業者を呼び込む

バスターミナルビルの老朽化

車いす移動に対応したエレベーターがない

横断できる方向が限られている

空き家や空き店舗の活用が進んでいないところもある

アミューズメント機能など、市民・観光客が求める施設が不足している

待合せ空間の老朽化、系統等の案内不足

結果、駅を出た人が中心市街地に向けて横断することが妨げられている (③,⑤)

結果、中心市街地への回遊が思うように進んでいない (③,④,⑤,⑥)

バスターミナルの場所が鳥取駅出入口部分から離れており、わかりづらい

結果、乗継の利便性が低い (①)

歩行者と自転車が共用のため、時間によっては危険なこともある

駐輪禁止区域で、店舗周辺に駐輪場がないため、回遊が制限される

結果、自転車による回遊が進まない (各所で貸出・乗捨て可能なため、回遊の機動性が高いシェアサイクルが未導入) (⑤)

憩いの場となる豊かな「けやき広場」であるが座るスペースが少ない

観光客にとって、無料Wi-Fiによる情報収集は不可欠だが、現在は未対応

結果、滞留できる場となっていない (⑤)

問「駐車場・駐輪場が整備されている」

■ そう思う	■ ややそう思う
■ ぶつう	■ ややそう思わない
■ そう思わない	

(意向調査結果 (住民web調査))

駐車場の所在が分かりにくく、満空状況も分かりにくい

結果、自動車による来訪者の満足度が低い (②)

駅前広場内の施設案内の不足

結果、観光客の移動が煩わされる (②)

鳥取城址を眺望できる溜まり空間がない

結果、アイストップの有効活用できず (①)

自家用車の乗入とタクシー駐車場の混在

結果、駅前広場の自動車交通の輻輳 (①)

観光案内施設が駅出入口から離れている

結果、わかりづらく、利用しづらい (⑥)

広場の利用が活発とはいえない

結果、空間において寂しい印象を与える (①)

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

○鳥取駅周辺の課題整理(課題と価値向上に向けた取組との対応)

位置	現状・課題(16頁)	根拠・視点【基礎調査ページ】	取組(15頁)
バス ターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルビル(待合所等)の老朽化 ・系統等の案内不足 ・バスターミナルの駅北口からの離隔と分かりにくさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用状況【P31・32】 ・意向調査 等 	①
交差点	<ul style="list-style-type: none"> ・地下道にエレベーターがなく、エスカレーターは時間限定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者自転車通行量【同 P24】 ・現地調査 等 	③、⑤
緑陰 広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ケヤキ広場の座るスペースが少ない ・無料Wi-Fi未整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・無料Wi-Fiスポット分布状況【P21】 ・意向調査 等 	⑤
ゲート 空間	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場内の施設案内の不足 ・観光案内施設が離れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査 ・現地調査 等 	② ⑤
交通 広場	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車の乗り入れ、タクシー待機場の混在 ・鳥取城址を眺望できる溜まり空間がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査 等 	①
風紋 広場	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用が活発でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集客機能【P17】 	①
—	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗活用の動きはあるが、空き店舗数は高止まり傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗状況【P16】 	③～⑥
—	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、観光客が求める施設不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アミューズメント施設、観光施設状況【P18・19】 ・意向調査 等 	③～⑥
—	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者と自転車との共用。店舗周辺の駐輪場不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者等通行量状況【P23】 ・意向調査 等 	⑤
—	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の場所等が分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査 ・まちなか駐車場マップ・一覧 等 	②

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

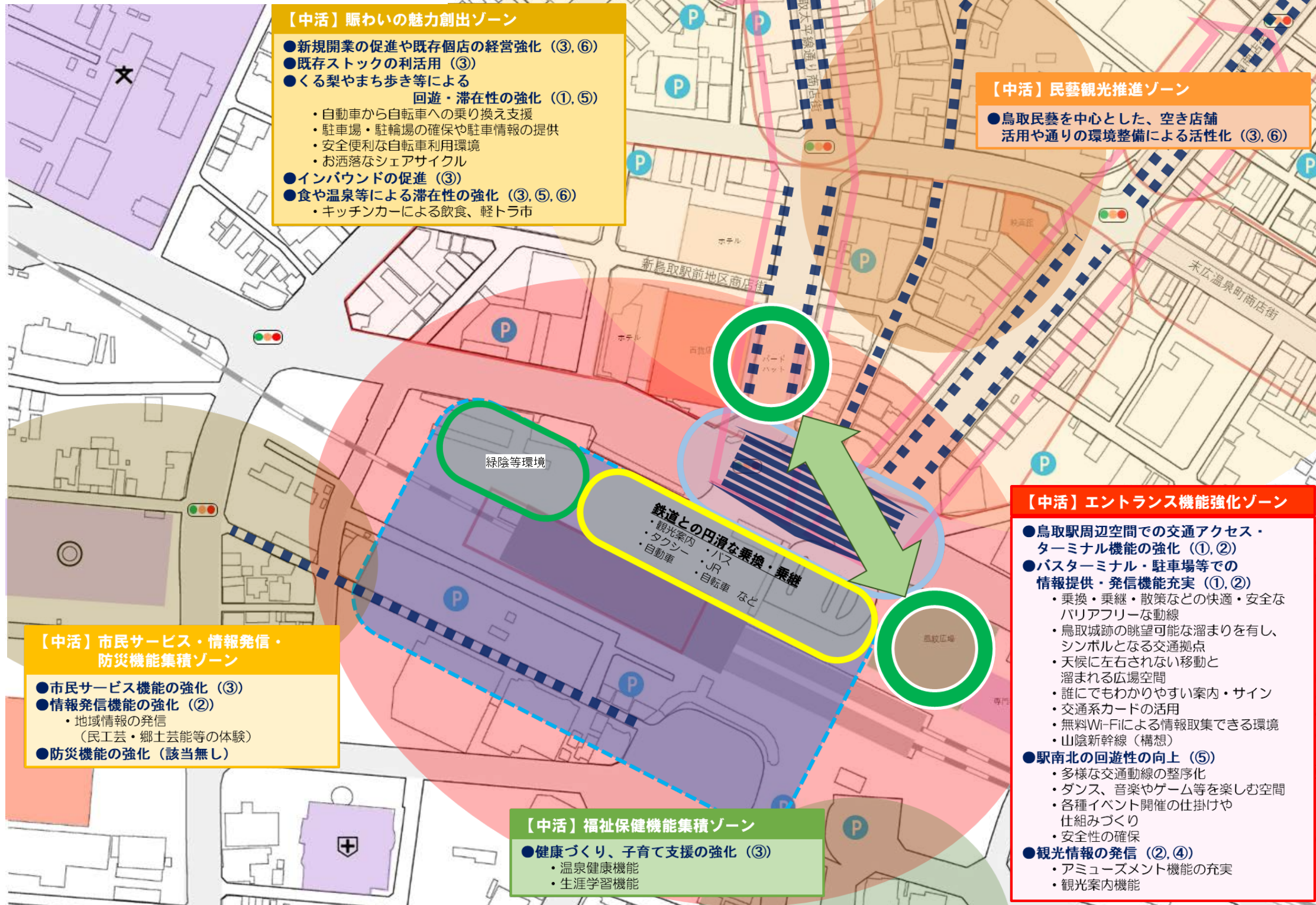
2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

鳥取駅周辺ゾーニング (中心市街地活性化基本計画)

() 内の数字は資料4 右下の駅前エリアの価値向上の番号と対応

- ①鳥取駅周辺空間での交通アクセス・ターミナル機能の強化
- ②バスターミナル・駐車場等での情報提供・発信機能充実
- ③鳥取駅周辺での集客機能の利活用促進

- ④鳥取駅周辺でのアミューズメント機能の充実
- ⑤鳥取駅周辺及び中心市街地での回遊性・滞在性の向上
- ⑥新たな事業者を呼び込む



- 【中活】賑わいの魅力創出ゾーン**
- 新規開業の促進や既存個店の経営強化 (③, ⑥)
 - 既存ストックの利活用 (③)
 - くる梨やまち歩き等による回遊・滞在性の強化 (①, ⑤)
 - ・自動車から自転車への乗り換え支援
 - ・駐車場・駐輪場の確保や駐車情報の提供
 - ・安全便利な自転車利用環境
 - ・お洒落なシェアサイクル
 - インバウンドの促進 (③)
 - 食や温泉等による滞在性の強化 (③, ⑤, ⑥)
 - ・キッチンカーによる飲食、軽トラ市

- 【中活】民藝観光推進ゾーン**
- 鳥取民藝を中心とした、空き店舗活用や通りの環境整備による活性化 (③, ⑥)

- 【中活】エントランス機能強化ゾーン**
- 鳥取駅周辺空間での交通アクセス・ターミナル機能の強化 (①, ②)
 - バスターミナル・駐車場等での情報提供・発信機能充実 (①, ②)
 - ・乗換・乗継・散策などの快適・安全なバリアフリーな動線
 - ・鳥取城跡の眺望可能な溜まりを有し、シンボルとなる交通拠点
 - ・天候に左右されない移動と溜まれる広場空間
 - ・誰にでもわかりやすい案内・サイン
 - ・交通系カードの活用
 - ・無料Wi-Fiによる情報収集できる環境
 - ・山陰新幹線(構想)
 - 駅南北の回遊性の向上 (⑤)
 - ・多様な交通動線の整序化
 - ・ダンス、音楽やゲーム等を楽しむ空間
 - ・各種イベント開催の仕掛けや仕組みづくり
 - ・安全性の確保
 - 観光情報の発信 (②, ④)
 - ・アミューズメント機能の充実
 - ・観光案内機能

- 【中活】市民サービス・情報発信・防災機能集積ゾーン**
- 市民サービス機能の強化 (③)
 - 情報発信機能の強化 (②)
 - ・地域情報の発信(民芸・郷土芸能等の体験)
 - 防災機能の強化 (該当無し)

- 【中活】福祉保健機能集積ゾーン**
- 健康づくり、子育て支援の強化 (③)
 - ・温泉健康機能
 - ・生涯学習機能

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

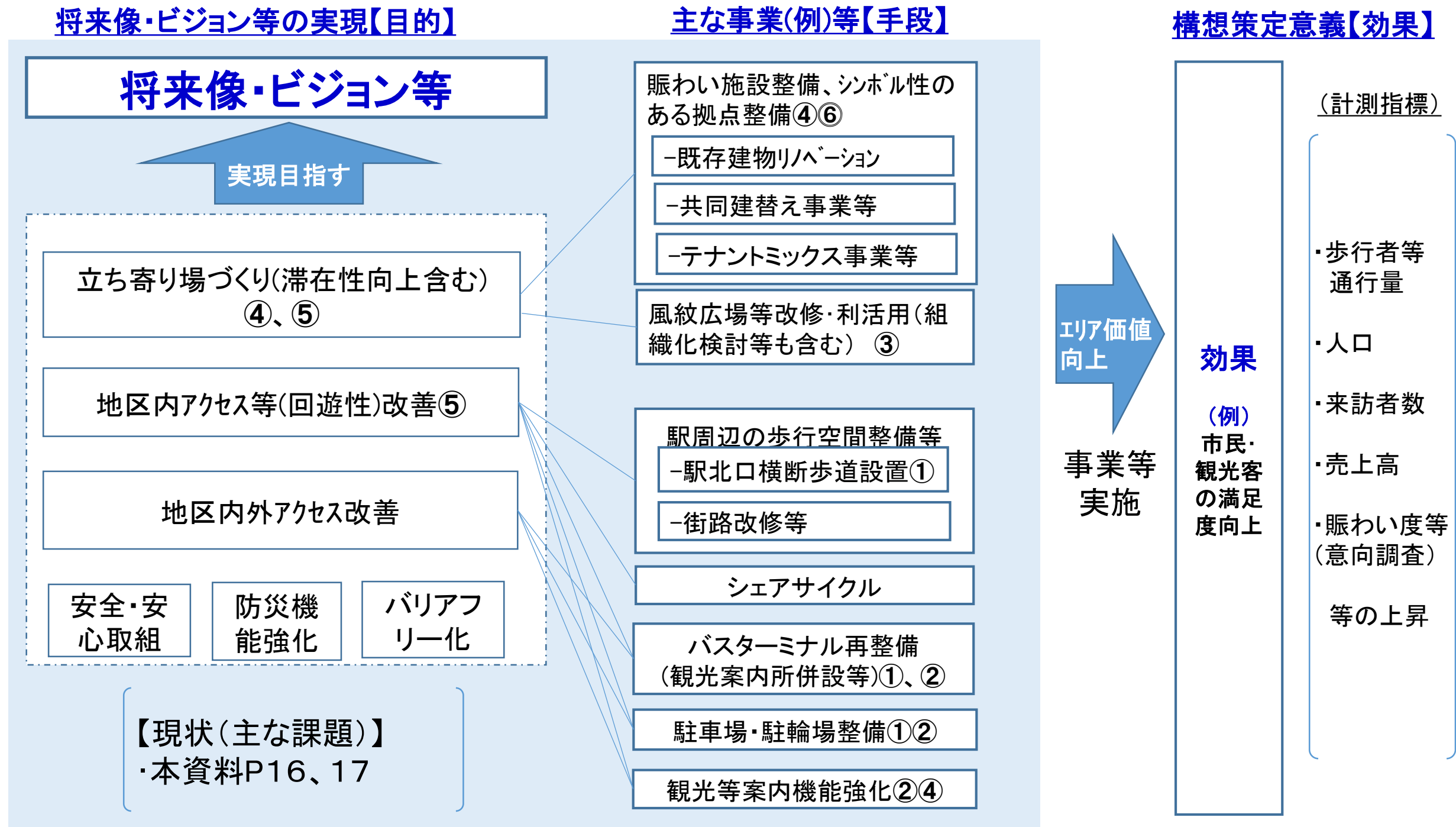
○中活計画ゾーン別の対応策、効果及び機能等例示

ゾーン	対応策(中活計画)	効果(中活計画)	導入が考えられる機能等(例示)	備考
エントランス機能強化ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者導線の改良 ・交通結節機能の強化 ・観光情報の発信 ・駅南北の回遊性向上など 	<ul style="list-style-type: none"> ・(市の玄関口としての)魅力と機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥取駅周辺空間での交通アクセス・ターミナル機能の強化(①、②) ●バスターミナル・駐車場等での情報提供・発信機能充実(①、②) <ul style="list-style-type: none"> ・乗換・乗継・散策などの快適・安全なバリアフリーな動線 ・鳥取城跡の眺望可能な溜まりを有し、シンボルとなる交通拠点 ・天候に左右されない移動と溜まれる広場空間 ・誰にでもわかりやすい案内、サイン ・交通系カードの活用 ・無料Wi-Fiによる情報収集できる環境 ・山陰新幹線(構想) ●駅南北の回遊性の向上(⑤) <ul style="list-style-type: none"> ・多様な交通動線の整序化 ・安全性の確保 ・ダンス、音楽やゲーム等を楽しむ空間 ・各種イベント開催の仕掛けや仕組みづくり ●観光情報の発信(②、④) <ul style="list-style-type: none"> ・アミューズメント機能の充実 ・観光案内機能 	
市民サービス・情報発信・防災機能集積ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所本庁舎、防災倉庫や公園の整備 ・情報発信スペース、コミュニティスタジオなどを活用 	<ul style="list-style-type: none"> →市民サービス機能や防災機能の強化 →情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民サービス機能の強化(③) ●情報発信機能の強化(②) <ul style="list-style-type: none"> ・地域情報の発信(民芸・郷土芸能等の体験) ●防災機能の強化(該当無し) 	
福祉保健機能集積ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所駅南庁舎への保健所、保健センター・子育て支援機能の配置※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり、子育て支援の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくり、子育て支援の強化(③) <ul style="list-style-type: none"> ・温泉健康機能 ・生涯学習機能 	※中核市移行に伴う措置
民藝観光推進ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・(鳥取民藝等を活かした)空き店舗の活用、通り環境整備等 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光交流の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥取民藝を中心とした、空き店舗活用や通りの環境整備による活性化(③、⑥) 	
賑わいの魅力創出ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・新規開業の促進、既存店舗の経営強化、既存ストックの活用 ・100円循環バスの活用、街歩きの推進等 	<ul style="list-style-type: none"> →賑わいや魅力の創出 →回遊性、滞在性の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規開業の促進や既存個店の経営強化(③、⑥) ●既存ストックの利活用(③) ●くる梨やまち歩き等による回遊・滞在性の強化(①、⑤) <ul style="list-style-type: none"> ・自動車から自転車への乗り換え支援 ・駐車場・駐輪場の確保や駐車情報の提供 ・安全便利な自転車利用環境 ・シェアサイクル ●インバウンドの促進(③) ●食や温泉等による滞在性の強化(③、⑤、⑥) <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーによる飲食、軽トラ市 	

2. 現状を踏まえた第2期基本構想策定の論点

2-3. 論点整理(将来像・ビジョン等への展開)

○基本構想に位置付ける事業等の目的、効果等の整理



「駅前エリアの価値向上」策(R元年度業務(本資料P15))

①鳥取駅周辺空間の交通アクセス・ターミナル機能強化、②バスターミナル・駐車場等での情報提供・発信機能充実、③鳥取駅周辺での集客機能の利活用促進、④アミューズメント機能の充実、⑤鳥取駅周辺及び中心市街地での回遊性・滞在性の向上、⑥新たな事業者を呼び込む

(参考資料)他地区事例

シンボルとなる交通拠点機能の形成

バスターミナルと複合施設



▲バスターミナルと複合施設 (熊本)



▲3Fがバスセンターそれ以外は百貨店 (広島)

観光案内所



▲国際観光案内所 (松江)

▼観光案内所 (福井)



歩行者動線の整序化、乗換の快適性・利便性向上

分かりやすい駅前広場動線 (福井)



▲駅前のスクランブル交差点

溜まれる空間活用の仕掛け

フリーWi-Fi (大崎) ▶



駐車場の情報提供

携帯電話での駐車場情報 (東京都中央区周辺) ▶



◀バス乗降場の充実した案内

わかりやすい満空表示 (大崎ブライトコア) ▶

自転車利用環境の充実

シェアサイクル



▲シェアサイクル（岡山）

▲シェアサイクル（広島）

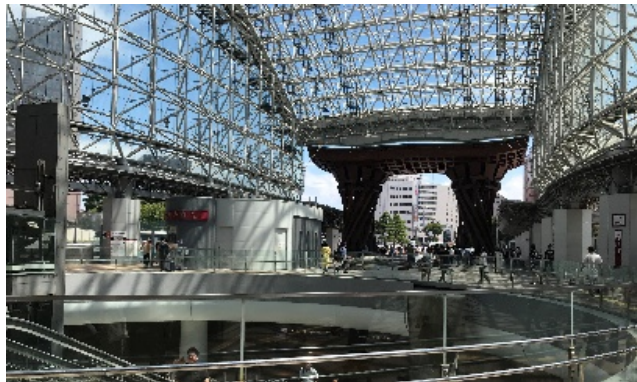
自転車通行帯



▲通行帯（福岡）

▲通行帯（岡山）

賑わいの拠点の形成



▲駅前広場のシェルター（金沢）

▲駅直結施設内の広場（福井）

▲公園の屋根・ステージ（天理）

▲広場の屋根・ステージ（名古屋・栄）

アミューズメント機能等の充実



▲酒蔵を改造した映画館（深谷）



▲ゲストハウス（東京都新宿区）